

市民が選んだ

あしや みらい いさん
芦屋の未来遺産

～ 芦屋文化の 100 年リレー ～

平成 30 年、兵庫県は 150 周年を迎えます。この節目にあたり、ふるさと兵庫を再認識し、新たな兵庫づくりを考える機会とするため、当該事業を実施します。



2017 年 12 月撮影^{さつえい}（芦屋市提供）

あしや みらい いさん うんどうすいしん いんかい
芦屋未来遺産運動推進委員会

（発行：芦屋ユネスコ協会／協力：芦屋市・芦屋市教育委員会）



わたし す あしやし しぜんいさん れき
私たちの住んでいる芦屋市は、自然遺産・歴史遺産・景観など、未来へ伝えていきたい多くの文化遺産を抱える宝石のようなまちです。

あしやみらいいさんうんどうすいしんいんかい げんざい
芦屋未来遺産運動推進委員会では、現在を生きるわたしが100年後の子どもたちにそんな宝物を残したいと願い、「芦屋文化の100年リレー」をスタートしました。

さつし しようかい
この冊子ですべてをご紹介することはできませんが、リレーのバトンをお渡しします。

せんじん たいせつ きおく みな
先人からの宝物を大切に記憶し、皆さんがおとなになったときには、次世代へとバトンをつないでいただきたいと思います。

1 あしやがわ げんりゅう 芦屋川の源流

うしろはちまきやま
芦屋川の源流は、後鉢巻山(芦屋市最高地点・898.6m)の手前、白山石宝殿の祠を下ったあたりだといわれています。

ろっこう かんたん さ よわ かこうがん みかげいし
六甲の山々は、寒暖の差に弱い花崗岩(御影石)でできています。芦屋川は急峻な川で、流れも速く、大雨のたびに巨石を含む土砂を押し流し続けてき



ました。
この堆積でできた土地が、わたしが住んでいる芦屋となっています。

2 ひがし やま 東おたふく山

ろっこうせんけい いちぶ な た さんち
六甲山系の一部から成り立っている芦屋の山地は、六甲変動の中で生まれました。後鉢巻山、蛇谷北山、鉢巻山、荒地山、城山、奥池、ゴロゴロ岳など、市街地から見るとせり上がるような山の姿ですが、東おたふく山はなだらかな草原が広がっています。

ハイキングを楽しむ人、またロックガーデンへ行く人などが東おたふく山を利用しています。



3 おくいけ さるまるやすとき 奥池と猿丸安時

えどじだい 江戸時代、芦屋の村々は日照りが続くと田畑の水不足に悩み、水争いが絶えませんでした。そこで、当時、芦屋村の年寄であった猿丸又左衛門安時(1804年ー1879年)は、天保12年(1841)から元治2年(1865)までの約20年の歳月をかけて、



奥池をつくりました。今では、周囲に自然の恵み豊かな遊歩道も整備されています。

4 たけ ゴロゴロ岳

ゴロゴロ岳という名はどこから来たのでしょうか？ 岩がごろごろしているとか、雷が多いところとか、標高が565.6mだからと諸説ありますが、はっきりはわかりません。今はありませんが、ここにはかつて「人間灯台」といわれる旧神戸営林署剣谷気象観測所がありました。

38年間もここに住み込み、観測を続けた人がいたのです。



⑤ ナウマンゾウの臼歯化石

ナウマンゾウの化石は、昭和36年(1961)、芦屋市立美術館によって、3～10万年ぐらい前のナウマンゾウの右下顎の第三臼歯(乳歯)と鑑定されて



います。

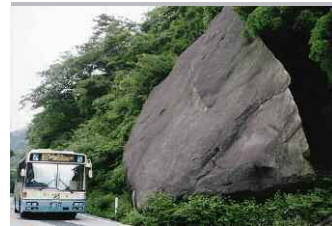
この化石は、現在、芦屋市立美術館に保管され、たびたび展示されています。

⑥ フカキリ岩・弁天岩

昔、干ばつに困った村人によって、雨乞いの儀式が行われていた岩です。フカキリ岩で切ったフカの



血を弁天岩に塗りつけることで、けがれを嫌う水神が大雨をふらして洗い流すとしんじられていたようです。



江戸時代の末期にも、行者によってここで雨乞いの儀式が行われたと、伝えられています。

⑦ 城山 (鷹尾山)

鷹尾山は通称「城山」と呼ばれ、弥生時代中期から後期(今から約2000年前)の土器が出土しました。

また、山頂一帯は鷹尾城跡でもあります。鷹尾城は、細川高国方の国侍、摂津豊島地方の豪族である瓦林政頼が16世紀前半に築いた中世山城で、永正8



年(1511)には、鷹尾城をめぐって、細川高国方と細川澄元方の軍勢が戦いました。

⑧ 会下山遺跡

昭和29年(1954)に発見された弥生時代中期～後期(紀元前2世紀～紀元1世紀)の高地性集落跡。昭和31～36年(1956～1961)に発掘調査を実施。平成23年(2011)2月7日、国指定史跡に指定。遺跡は山全体に広がり、竪穴住居跡や祭場

跡、火たき場跡、堀跡、墓跡等があります。標高200mからの眺望は大変良く、遠くの地域まで見渡せます。



⑨ 天然プール

山芦屋町や近隣の人たちは、山芦屋公園の北側にある芦屋川の堰堤を、愛着を込めて「天然プール」と呼んで、長らく親しんできました。芦屋川の堰堤は、昭和13年(1938)に起きた阪神大水害の後、芦屋川の中流域にいくつも設けられました。急峻な芦屋



川の流れは、ひとたび雨が降ると一気に増水するため、現在では立ち入り禁止区域になっています。

⑩ 旭塚古墳

昭和36年(1961)に発見され、京都大学考古学研究室により発掘調査が行われました。その後、平成19年(2007)に芦屋市教育委員会が再び発掘調査を実施、7世紀中頃に造られた古墳であることがわかりました。横穴式石室の大きさは、全長9.8m、玄室の長さ4.1m・幅2.1m、羨道の長さ5.7m・幅1.6mでした。

調査後、石室は地中に埋め保存、山芦屋遺跡緑地として整備されています。



ぶんかてきけいかん 芦屋川の文化的景観

平成 24 年(2012)4月 1 日に「芦屋川の文化的景観」という名称で、芦屋川を芦屋市指定文化財に指定しました。芦屋川の文化的景観は、六甲山地を背にする芦屋川がもたらす水の恩恵と水害の脅威が交錯して作られたもので、天井川と扇状地に適応して発展してきた芦屋市の成り立ちを示しています。

流域には、国指定重要文化財ヨドコウ迎賓館をはじめ、数多くの文化財があり、芦屋川の文化的景観の一部を形成しています。

げいひんかん 11 ヨドコウ迎賓館

近代建築の巨匠といわれるフランク・ロイド・ライト設計の住宅建築で、国指定重要文化財です。

灘の酒造家・山邑太左衛門の別邸として大正 13 年(1924)に完成しました。建物の内外に幾何学的な彫刻が施された大谷石や飾り銅板などを見ることができます。

約 2 年間の保存修理を終えて、2019 年 2 月から一般公開されています。



こうざがわ こうざ たき 12 高座川・高座の滝

高座川は、城山・荒地山とロックガーデンの谷筋を流れ、高さ 10 m の高座の滝を形成しています。

滝は雌滝と雄滝がありますが、雄滝の横はロックガーデンの登山口となっていて、岩肌にはロッククライミングの父・藤木九三のレリーフがはめ込まれています。



さらに谷筋を下った川は、開森橋の北側あたりで芦屋川に合流しています。

あれちやま 13 荒地山

芦屋と神戸の境にある荒地山は、石宝殿に祀られている山の神(権現さま)の住まいだといわれています。そのため、六甲山中で悪事をはたらくと、この荒地山に迷い込んで神罰を受けると言い伝えられてきました。そうした民話が「七右衛門ぐらのたたり」です。

そのお話から、この岩場を「七右衛門ぐら」と呼ぶようになったと言われています。



さんじょう はちまん じんじゃ 14 三条八幡神社

三条八幡神社の境内には、日向佐土原藩(宮崎県)の島津忠興が用いた刻印のある手水鉢や、国旗掲揚台の石柱などが移設されています。

また、塩通山法恩寺(報恩寺)跡にあった兵庫県指定天然記念物(昭和 9 年[1934]に指定)「六甲くろ



がねもち」の巨樹(昭和 33 年[1958]に枯死したため指定解除)の孫の木も植えられています。

あしや はいじ あと 15 芦屋廃寺址

芦屋廃寺は、飛鳥・白鳳文化期(7 世紀)に建立された昔のお寺です。当時のお寺の名前が史料に残っていないので、「芦屋廃寺」と呼ばれています。なお、元禄 5 年(1692)の『寺社御改委細帳』には行基が開いたと伝える塩通山法恩寺という寺院名があり、在原業平の修復を受けたこと、嘉吉 2 年(1442)兵火のため焼失し、その跡に薬師堂を建てたと伝えられています。



16 さるまるやすときしょうとくひ 猿丸安時頌徳碑

おくいけ つく みるむら みずききん すく
奥池を造り、芦屋の村々を水飢饉から救ったとい
さるまるまたざえもんやすとき たた
う猿丸又左衛門安時(1804 - 1879 年)を称える
ため、大 正5年(1916)に建立されました。



えどじだい ひ
江戸時代、芦屋の村々は日
て つづ たはた みずがそく
照りが続くと田畑の水不足に
なや みずあそ た
悩み、水争いが絶えませんでした。

とうじ あしやむら としより
そこで、当時、芦屋村の年寄
であった猿丸又左衛門安時は、
約 20 年のさいげつ
歳月をかけて奥池
を造りました。

17 ささめゆき ひ 「細雪」の碑

ぶんがくひ たにざきじゅんいちろう
この文学碑は、昭和 61 年(1986)、谷崎潤一郎
せいだん きねん ささめゆき
生誕 100 年を記念して、谷崎潤一郎「細雪」文学碑
こんりゅうじつこういんかい いんちよう・つじもといさむ た
建立実行委員会(委員長・辻本勇)らによって建てら
れました。ぜんめん たにざきまつこふじん
前面には、谷崎松子夫人による「細雪」の
ふた もじ りめん
二文字、裏面には、昭和 13 年(1938)に起きた「阪
しんふうすいがい はん
神風水害」で、阪
きゅうあしやがわしゅうへん
急芦屋川周辺の
こうずい ようす えが
洪水の様子を描
いた小説『細雪』
のいっせつ きざ
一節が刻まれ
ています。



18 あしや れいえん 芦屋霊園

こくさいぶんかじゆうたくとし あか
芦屋霊園は、国際文化住宅都市にふさわしい、明
こうえんぼち けんたにくゆうりん とち
る公園墓地をめざして、刃谷国有林の土地を借り、
しょうわ しょうせいきやうよう はじ
昭和 27 年(1952)から造成・供用が始まりました。

えんない しか
園内には、サクラや市花コバノミツバツツジなど
はな きぎ しょうじゅ しばふ ひろば すい
の花や木々が植樹されているほか、芝生の広場や水



ろ さんさくろ せいび
路、散策路が整備
されています。

また、展望台か
らは芦屋のまち
な おおさかわん
並みや大阪湾が
いちぼう
一望できます。

19 あしやじんじゃ 芦屋神社

けいだい かじん し さる
芦屋神社の境内には、歌人としても知られる猿
まる だゆう はか つた せきとう つく
丸大夫の墓と伝えられる石塔があります。造られ
た時代は鎌倉時代と考えられ、猿丸大夫の活躍し
じだい かまくらじだい かんがえ かつやく
た時代から 400 ～ 500 年ものものです。

また境内には6世紀ごろの横穴式石室墳があり、

ここに芦屋川上
べんてんいわ まつ
流の弁天岩に祀
られていた水神
うつ すいじん
が移され、「水神
じゃ せきひ た
社」の石碑が建
てられています。



20 いわぞのりよくち ろくろくそうにしりよくち 岩園緑地・六麓荘西緑地

いわぞのちやうしゅうへん しな いちばん しぜん のこ
岩園町周辺は、市内でも一番自然の残っていると
ころです。その昔、芦屋にどのような樹木が茂って
いたのかを知るためには、人の手が入らないままに
残された森林などが大切な手掛かりになります。

平成 20 年(2008)に、市にそんな森林が2カ所



きそう
寄贈されました。
よくねん ほ ごじゅ
翌年には保護樹
りん せいび
林として整備され、
岩園緑地・六麓荘
西緑地として公開
されています。

21 ろくろくそうじゅうたくち 六麓荘住宅地

かぶしきがいしゃろくろくそう
六麓荘住宅地は、株式会社六麓荘が昭和 4 年から
6 年(1929 - 31)にかけ造られました。「六麓荘」
ふうこうめいび ろくこうさん ふもと べつそうち
の名称は、「風光明媚な六甲山の麓にある別荘地」に



ちなんだものです。当時とし
めずら どうろ ぜんめん ほそう
ては珍しく、道路の全面舗装、
じょう・げすいどう とし せいび
上・下水道、都市ガスも整備
され、でんりよく・でんわせん ち か
電力・電話線も地下に
まいせつ りよくち
埋設されました。六麓荘緑地
いっかく ちからづよ
の一角には、「六麓荘」と力強
ほ せきひ いま のこ
く彫られた石碑が今も残っ
ています。

22 いわそのてんじんしゃ 岩園天神社

あしや にしのみやくらくえんほうめん ぬ いわそのずいどう ほく
芦屋から西宮苦楽園方面に抜ける岩園隧道の北
西 200 m ほどの所に、こんもりとした森がありま
す。岩園地区の鎮守の社である岩園天神の森です。



けいだい なんせいかど
境内の南西角に 7 世紀
ごろの古墳の石室があり、
その上に花崗岩に彫られ
た役小角の像が建ってい
ます。古くから、土地の
人々は“行者さん”と呼び、
宮とともに大切に信仰さ
れています。

23 あさひがおかじょうもんいせき 朝日ヶ丘縄文遺跡

昭和 39 年(1964)、道路工事によって発見され
た縄文時代前期(今から約 6000 年前)の遺跡です。

遺跡の範囲内にある朝日ヶ丘集会所内には、出土
した縄文土器と石器の一部が展示されています。

集会所南側の屋外には、芦屋市域の地形を縮尺



1 / 300 で表し
た、主な遺跡の
位置を示してい
る「芦屋市遺跡
しょうかくもけい
触覚模型」が設置
されています。

24 いわがひら こうえん 岩ヶ平公園

昭和 36 年(1961)に開園の岩ヶ平公園は、多く
の桜の木が植えられ、春には公園中が桜でいっぱ
いになります。その東側には、アメリカのモンテペ
ロ市との姉妹都市提携を記念したバラ園があり(昭
和 48 年[1973]開設)、5 月には約 260 株のバラ
が咲き誇ります。



ひっそりと住宅
地の中にある公園
も、桜の季節には
知る人ぞ知る名所
となっています。

25 なかのいけ 仲ノ池

仲ノ池は、もともと江戸時代に芦屋の田畑に水を
流すための灌漑用水として造られた池です。

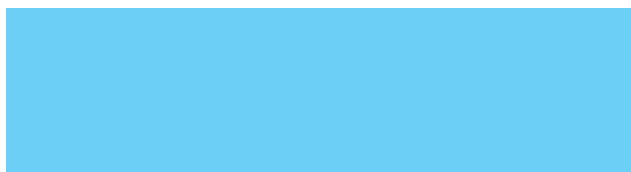
その後いろいろな経緯を経て、現在は「仲ノ池緑
地公園」として、市民の憩いの場となっています。

そのため、池の周囲の植物や池の生き物も昔とは

まったく変わっ
てしまいました
が、現在も自然観
察会が開催され
るなど、市民に親
しまれています。



◆あなたが、未来の子どもたちに残してい
きたいと思ったところはどこですか？



26 あぼしんのうづか 阿保親王塚

古墳時代前期(4世紀)の古墳が確認されています。現在の姿に改修したのは阿保親王の子孫である長州藩の毛利氏ですが、江戸時代の地誌『摂津志』(享保20年(1735))等には「阿保親王」の名が見え、ここが平安時代の皇族である阿保親王(792—842年)の墓と認識していたようです。



しかしながら、古墳の年代とまったく合わず、阿保親王とは関係がないことがわかります。

27 たかはまさんだいくひ 高浜三代句碑

昭和55年(1980)、芦屋観光協会創立30周年記念事業として、月若公園内に建てられました。

月若公園の近くには、かつて俳人・高浜年尾が住んだ家があり、俳誌「ホトトギス」ゆかりの地でした。碑文には、「咲きみちてこぼるる花もなかりけり」(虚子)、「六甲の端山に遊び春隣」(年尾)、「目に慣れし花の明るさつづきをり」(稲畑汀子)と三代の句が刻まれています。



28 なりひら きんみつ ほくら 業平・公光の祠

在原業平(825—880年)は、平安時代の貴族で、平城天皇の孫、阿保親王の五男にあたります。また、六歌仙・三十六歌仙の一人であり、歌人として



もよく知られています。『伊勢物語』を愛し業平を尊敬する若者・公光の物語としては、謡曲『雲林院』があり、この祠もその謡曲にちなんで建てられ、地元の人々によって今もたいせつに守られています。

29 なりひら か ひ まつのうちりよくち 業平の歌碑 (松ノ内緑地)

歌碑には、業平の「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし」の歌が刻まれています。松ノ内緑地は、阪神・淡路大震災の復興事業として、平成11年(1999)、旧宗信幼稚園の跡地に整備され、緑地内にこの歌碑が建てられました。

昔の図絵等に、業平の屋敷が市民センター辺りにあったとされており、ここに決められました。



30 あしやがわ 芦屋川トンネル

現在、JR東海道本線が芦屋川をくぐり抜ける場所には、かつて煉瓦で築かれた芦屋川トンネルがありました。このトンネルは、明治7年(1874)5月に建設された天井川トンネルで、日本で初めて“トンネル”という名称が使われたことが、当時のイギリスの新聞で紹介されました。その後、大正9年



(1920)に解体、芦屋川跨線水路橋に改築されて、現在に至っています。

31 あしやぶつきょうかいかん 芦屋仏教会館

丸紅商店初代社長・伊藤長兵衛氏が、昭和2年(1927)に私財を投じ創設しました。近代建築に東洋風・インド風の細部意匠を取り入れたデザインが特徴的な建物です。終戦直後には、一部が市立図書館としても使われました。創設以来90年以上の歴史を歩みながら、地域社会に根差した活動が行われています。国登録有形文化財。景観重要建造物にも指定。



32 ひよしじんじや せきし 日吉神社石祠

日吉神社本殿南東側の浮島内にある石造物です。芦屋市指定文化財。高さ 58cm・幅 51cm の花崗岩製で、屋根の四面には文字や記号、正面には永正 17 年(1520)の文字が彫られており、市内に現存する最古の金石文です。



16 世紀には、津知村がすでに成立していたことを示している石祠と言えます。

33 あしやきょうかい カトリック芦屋教会

昭和 31 年(1956)に建てられたこの教会は、鐘楼が収められた高い尖塔、正面のステンドグラス、聖堂入口に続く大階段が印象的な、ゴシック風の建築です。

芦屋川のランドマークとして市民に親しまれている建造物として、平成 30 年(2018)10 月 10 日、芦屋市景観重要建造物に指定されました。



34 あしや けいさつしよ 芦屋警察署

現在の芦屋警察署は、平成 13 年(2001)竣工。旧庁舎の南東角にあった正面玄関が部分的に保存されています。旧庁舎は、昭和 2 年(1927)に完成。



兵庫県営繕課の設計で、鉄筋コンクリート造 3 階建てでした。旧正面玄関は花崗岩で造られており、アーチの要石には夜間警備の象徴としてミミズクが彫刻されています。

35 きゅうあしやうびんきよくでん わじむしつ 旧芦屋郵便局電話事務室

平成 29 年(2017)、国登録有形文化財に登録。昭和 4 年(1929)に建設された電話交換局で、設計は通信省技師であった上浪朗。鉄筋コンクリート造 2 階建てで、今も新築当時の外観を残しています。

平成 16 年(2004)に N T T 西日本のお客様窓口が廃止された後、平成 17 年から、結婚式場・レストランの「芦屋モノリス」として営業しています。



36 あしやしりつとしょうかん うちでぶんしつ 芦屋市立図書館 打出分室

国登録有形文化財「旧松山家住宅松濤館」。この建物は、明治時代に大阪に建設された銀行の建物を松山與兵衛氏が美術品を収蔵するために購入し、昭和 5 年(1930)に現在の場所に移築したもの。その後、昭和 29～62 年(1954～1987)までは芦屋市立



図書館本館、平成 2 年(1990)からは図書館打出分室として利用され、現在に至っています。

37 うちでこうえん 打出公園

打出公園は、芦屋図書館打出分室の南に隣接する公園です。この公園には、かつて小さな動物園がありました。昭和 34 年(1959)の公園完成と同時に造られ、タイワンザルやリス、クジャクが見られました。なかでもサルは人気者で、芦屋ゆかりの村上春樹さんの小説にも登場しました。

今でも「お猿の檻のある公園」として、市民に親しまれています。



38 かなつやまこふん でんせつ 金津山古墳の伝説

金津山古墳には、「黄金塚」「金塚」といった別称があり、その昔、阿保親王が打出の村人たちの困窮に備えて黄金一千枚、金瓦一万枚を埋めさせたとい



う伝説があります。

この伝説は、江戸時代のおお 多くの書物等にもたびたび登場しており、江戸時代の村人たちが「朝日さす 入り日輝くこの下に 黄金千枚 瓦万枚」と謡い伝えたといわれています。

39 うちでてんじんしゃ 打出天神社

打出天神社は、旧打出村の氏神さまとして信仰されてきました。江戸時代の「摂津名所図会」にも紹介されています。明治41年(1908)、旧打出村にあった金毘羅神社・春日神社・若宮神社・南宮神社・厳島神社(金津山)を合祀し、現在に至っています。

本殿・拝殿は、昭和20年(1945)の空襲で焼失、昭和39年(1964)に新社殿が竣工しました。



40 だいなんこうせんせきひ 大楠公戦跡碑

建武3年(1336)2月10日に起こった楠木正成と足利尊氏が戦った打出合戦では、正成が足利直義を撃破し、尊氏らを兵庫に敗走させました。

この碑は、精道村教化団体聯合会が「楠公六百年祭記念事業」の一つとして取り上げ、昭和10年



(1935)2月に建立されました。

碑文の「大楠公戦跡」の文字は、本庄繁陸軍大將が書いたものです。

41 あぼさんしんのうじ 阿保山親王寺

親王寺は、844年、阿保親王(792 - 842年)の住居跡に建てられたと伝えられています。長州藩の毛利氏が阿保親王を祖先と考え、親王寺を厚く信仰して寄進をしたため、いろいろな宝物が所蔵されています。また、阿保親王塚古墳から出土した副葬品の銅鏡8面のうち4面が親王寺の寺宝となっており、これらの鏡も芦屋市指定文化財に指定されています。



42 とみた さいか きゅうきよ 富田碎花 旧居

「兵庫県文化の父」と呼ばれた詩人・富田碎花が、昭和14年から59年(1939 ~ 1984)、93歳で逝去するまでこの家に住んでいました。

母屋は昭和20年(1945)の空襲により焼失しましたが、昭和29年(1954)に再建されました。没後、市が譲り受け、元の姿をとどめる形で復元・整



備し、昭和62年(1987)5月から、富田碎花旧居として、公開しています。

43 みやがわ 宮川

宮川の名は、かつて下流付近に金毘羅神社が祀られていたことから名づけられたようです。

源を剣谷に、水道橋付近で東山町の溪谷から流れてくる支流と合流し、一直線に海へと流れています。

かつて、下流の両岸には松林が広がり、海水浴場などもあり名勝地になっていました。

下流に架かる汐風橋には、今も海鳥が訪れてきて、川の豊かさを教えてくれています。



44 あしや こうえん 芦屋公園

国道 43 号から芦屋川の左岸沿いに河口付近まで続くこの公園には、市木・クロマツが 420 本ほど茂り、白砂青松の昔を偲ばせます。松林の一隅には、京の都で退治された怪物が流れ着いたという伝説の「ぬえ塚」や、平成 7 年(1995)の阪神・淡路大震



災でなくなった市民の慰霊碑が建てられ、テニスコートの南には、芦屋遊園の昔の面影が残ります。

45 ぬえ塚

およそ 800 年もの昔、源頼政が京都の御所を騒がす怪物を弓矢で退治した。その遺骸を丸木舟にのせて川に流したところ、芦屋の浜に漂着。村人たちは祟りを恐れて、丁寧に塚を作って弔い、この塚のことを「ぬえ塚」と呼ぶようになったという伝説。

江戸時代の地誌等に記されている怪物のぬえ退治の伝説に基づいて、大正 6 年(1917)に建てられた石碑。



46 あしやし たにざきじゅんいちろう きねんかん 芦屋市谷崎潤一郎記念館

芦屋を舞台に描いた小説「細雪」で知られている文豪・谷崎潤一郎(1886-1965)の文学館です。谷崎の生涯と、主な文学作品の紹介、直筆原稿など貴重な資料の展示や谷崎好みの庭園が楽しめます。

谷崎が芦屋に住んだのは、昭和 9 年(1934)から



約 2 年間で、松子夫人との新婚生活を、宮川町に残る「富田碎花旧居」で過ごしています。

47 あしやしりつ びじゅつはくぶつかん 芦屋市立美術博物館

平成 3 年(1991)に、芦屋市制 50 周年記念事業の 1 つとして開館しました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設です。芦屋から世界に発信した前衛美術グループ「具体」の作品や、芦屋にゆかりの画家の作品を所蔵。また前庭には、川西町に住んだ画家・小出櫓重のアトリエが復元されています。



48 きょし きねんぶんがくかん 虚子記念文学館

平成 12 年(2000)、高浜虚子の孫で俳人の稲畑汀子氏が平田町に開館。俳人・高浜虚子の資料、俳句作品や著書などのほか、正岡子規や夏目漱石ら文人との交流を示す書簡も所蔵し、虚子と俳句に関する常設展示や企画展示を開催しています。



昭和 9 年(1934)に、虚子は日本初の本格的な「新歳時記」を編集、季節への見解を明確にし、日本人の基本的な季節感の完成をみました。

49 あしやがわ かこう 芦屋川河口

芦屋川の河口付近には、芦屋川が山から運んできた土砂が堆積し、入江となった海への入口に新しい三角州が徐々に広がってきています。そこではたくさんの海鳥があそび、潮干狩りをして楽しむ人々の姿を見ることができるようになってきています。

まるで、昔の芦屋の浜のミニチュア版を見るような光景です。100 年後は、どんな景色かな？



50 あしや 芦屋キャナルパーク

芦屋浜と南芦屋浜をはさむ水路と両岸の緑地や親水性護岸を、芦屋キャナルパークと呼んでいます。潮風大橋・浜風大橋とあゆみ橋が架けられており、水路ではカヌーなどのマリンスポーツを楽しんでいる姿を見ることができます。また、朝夕にジョギ



ングをする人、散策する人、家族で憩う姿などが見られ、市民の憩いの場となっています。

51 かいひんこうえん 海浜公園

芦屋浜の東海岸沿いに、兵庫県立海洋体育館(芦屋マリンスセンター)やプールなどの施設を含む海浜公園があります。マリンスセンターでは、ヨット・カヌー・ボートの貸し出しができ、季節を問わず絶好のコンディションで海洋スポーツが楽しめます。

だれでも利用することができ、指導を受けたり、講習会・研修会に参加することができます。



52 そうごうこうえん 総合公園

総合公園は、潮風大橋を南芦屋浜へ渡ってすぐの西前方にあります。ここには、サッカーやラグビーコート、陸上競技場のほか、野外ステージ、ガーデンなどがあり、ゆたかな緑地に囲まれています。

スポーツをとおして市民交流のほか、花と緑の学



習の場、さらには防災拠点の機能もあり、大気汚染対策の緑地としても活用されています。

53 みなみあしやはま 南芦屋浜ウォーターパーク

南芦屋浜ウォーターパークは、南芦屋浜下水処理場に隣接している公園で、滝やせせらぎを人工的に設置しています。水深が浅いので、小さな子どもでも安心して水遊びできますが、すべりやすいので注意が必要です。ただし、滝やせせらぎの水は高度にろ過

された下水処理水を使用していますが、飲んだり顔を付けたりしないように注意しましょうね。



54 しおあしや 潮芦屋ビーチ

その昔、芦屋浜・打出浜は松林に囲まれ、白砂青松の景勝地として有名なところでした。

その浜を埋め立て、新しいまちが誕生しました。そこで、かつての浜辺を再現しようとの市民の願いで造られたのが、潮芦屋ビーチです。ここでは、予約



制でバーベキューやビーチバレーを楽しむことができます。また夏の花火大会でも親しまれています。

55 マリーナのあるまち

南芦屋浜の東側には、たくさんのヨットやクルーザーが係留されたマリーナがあります。

周辺には、係留施設付き住宅やレストラン、結婚式場、スポーツクラブなどが建ち並んで、ちょっとしたリゾート地のような景色が見られます。

海に開かれた新しい芦屋の顔として、魅力ある未来へのまちづくりが続いていきます。

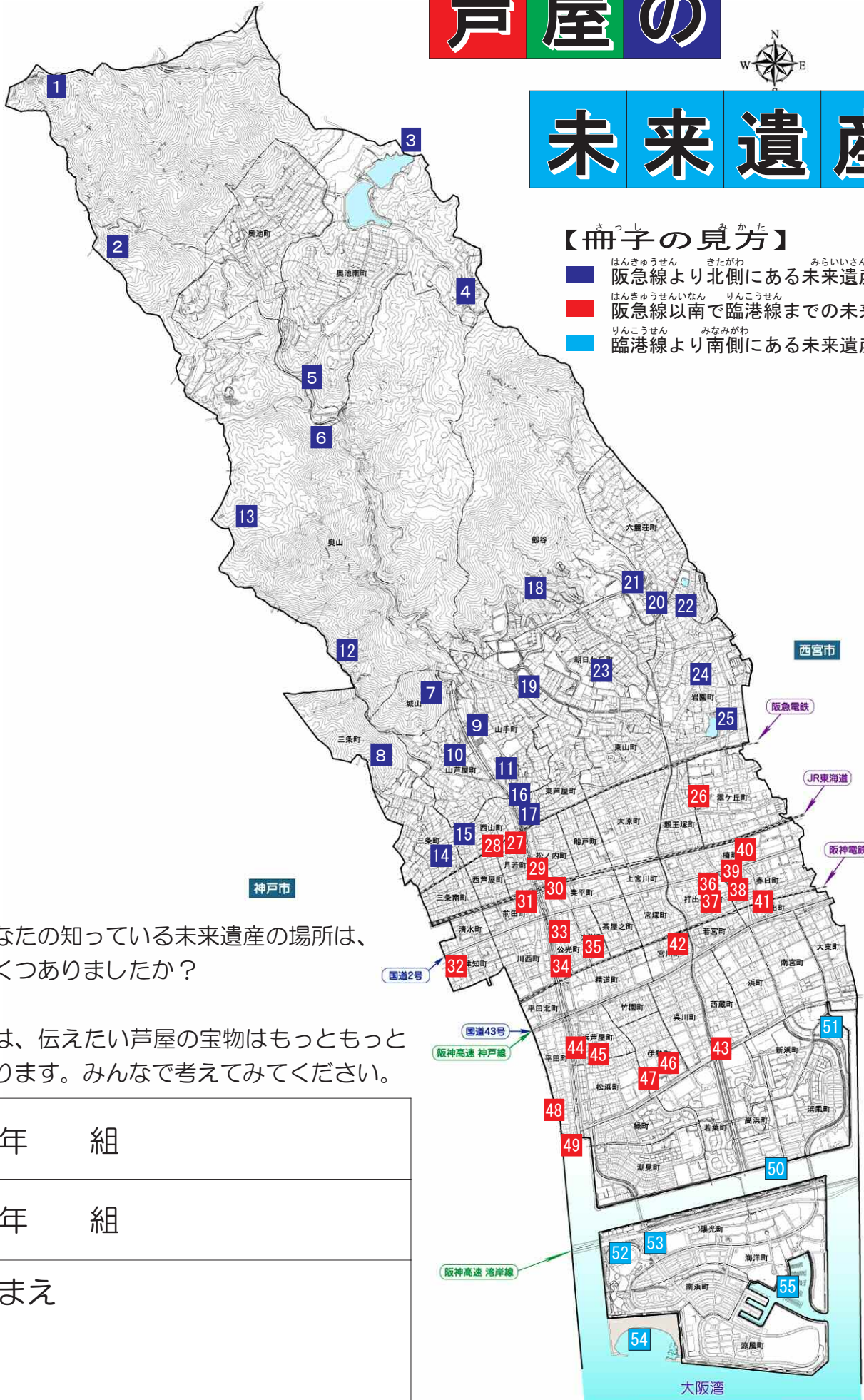




未来遺産

【冊子の見方】

- はんきゅうせん 阪急線より北側にある未来遺産
- はんきゅうせん りんこうせん 阪急線以南で臨港線までの未来遺産
- りんこうせん みなみがわ 臨港線より南側にある未来遺産



◆あなたの知っている未来遺産の場所は、
いくつありましたか？

◆実は、伝えたい芦屋の宝物はもっともっと
あります。みんなで考えてみてください。

3年	組
4年	組
なまえ	